

平成23年
10月27日

病害虫発生予報 11月号

茨城県病害虫防除所
茨城県植物防疫協会

農薬を使用する際は、必ずラベルを確認し、
周辺状況を考慮して使用しましょう。

< 目次 >

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ：うどんこ病，ハダニ類 1

冬レタス：菌核病，斑点細菌病 2

【防除所レポート】

ナシ：ナシ黒星病の秋季防除 3

トマトの黄化葉巻病について 4

【その他の病害虫】 4

イチゴ，促成ピーマン，秋冬ハクサイ，冬レタス，秋冬ネギ

II. 今月の気象予報 5

最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)で確認することができます。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel :029-227-2445

予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ

1. うどんこ病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 10月下旬現在、発病葉率は平年並で、発生地点率は平年よりやや高い。
- ② 気象予報によると、向こう1か月の降水量は平年より多く、日照時間は平年より少ないと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。
- ② 薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、系統の異なる薬剤を散布する。
- ③ ミツバチ導入後は、ミツバチに影響する薬剤もあるので、十分注意する。
- ④ 罹病部は新たな伝染源となるため、病葉はできるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して処分する。

2. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 10月下旬現在、被害葉率、発生地点率ともに平年より高い。
- ② 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高いと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハダニ類は増殖が速いので、発生の少ないうちに防除を徹底する。特にビニール被覆後は発生が増加するので注意する。
- ② 薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、同一薬剤の連用を避ける。
- ③ ミツバチ導入後は、ミツバチに影響する薬剤もあるので、十分注意する。

冬レタス

1. 菌核病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い～多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 10月下旬現在、発病株率は平年よりやや高く、発生地点率は平年並である。
- ② 気象予報によると、向こう1か月の降水量は平年より多く、日照時間は平年より少ないと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 菌核病の発生を認めた場合は、菌核が形成される前に発病株を適切に処分する。
- ② 多発すると防除が困難となるので初期防除を徹底する。また、降雨が続く場合には適宜防除を実施する。
- ③ 薬剤散布は、薬液が葉裏や株元にも届くよう丁寧に行い、薬剤を散布する際は収穫前日数、使用回数に十分注意する。また、周辺作物等へ飛散（ドリフト）しないよう十分注意して散布する。
- ④ 排水不良等は発生を助長するので、排水対策を行う。

(平成23年10月14日発表の病害虫速報No.7参照)

2. 斑点細菌病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 10月下旬現在、発病株率、発生地点率ともに平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 多発すると防除が困難となるので初期防除を徹底する。また、降雨が続く場合には適宜防除を実施する。
- ② 薬剤散布は、薬液が葉裏や株元にも届くよう丁寧に行い、薬剤を散布する際は収穫前日数、使用回数に十分注意する。また、周辺作物等へ飛散（ドリフト）しないよう十分注意して散布する。
- ③ 排水不良等は発生を助長するので、排水対策を行う。

ナシ黒星病の秋季防除

黒星病は、ナシの重要病害であり、近年発生が増加している。翌年の発生を抑えるために、越冬する病原菌に対して秋季防除は効果的である。

1. 本年の黒星病秋型病斑の発生状況

黒星病は、秋季にうすい黒色の病斑（秋型病斑）を葉裏に生じる（写真）。

10月中旬に行った黒星病秋型病斑の調査では、本年の発生量は平年よりやや多い（表）。

表 ナシ黒星病秋型病斑の発病度と発生地点率

地域（地点数）	発病度 ¹⁾		発生地点率（%）	
	本年値	平年値	本年値	平年値
全県（19）	1.0	0.7	84	52
県北・県央（4）	1.3	0.9	100	47
県南（6）	1.3	1.3	100	60
県西（9）	0.7	0.5	67	48

1) 発病度 = $\Sigma (2A + B) / (2 \times \text{調査葉数}) \times 100$

A：病斑が葉全体の1/2以上に分布する。B：病斑が葉全体の1/2未満に分布する。
調査葉数は300枚。

2. 防除対策

①薬剤防除

黒星病菌は10～11月の降雨時に、りん片に感染して翌年の伝染源となる。今年多発生した圃場では、落葉前の11月上旬にも防除を行う。特に、結果枝の先端に薬液が十分かかるよう、スピードスプレーヤの散布圧を調節する。

②落葉処理

秋型病斑を生じた落葉が伝染源となり、翌年の3月中旬頃子のう胞子が形成される。子のう胞子は5月下旬頃まで降雨により飛散する。翌年の伝染源を減らすために、ロータリー耕等を行い、落葉を土中にすき込むことも有効である。



写真 ナシ黒星病秋型病斑

トマトの黄化葉巻病について

10月中旬現在、抑制トマトにおけるタバココナジラミの発生量は平年よりやや多い。抑制トマトの栽培終了時には、トマトの株元を切断してハウス内の除草を徹底し、2週間程度ハウスを密閉して、タバココナジラミの野外への飛び出しを防止する。

促成・半促成栽培の場合は、発病株を早期に抜き取る。また、定植時に粒剤を施用する等、タバココナジラミの防除を徹底する。

(詳細は、病害虫防除所ホームページ病害虫関連情報の「トマト黄化葉巻病に注意！」を参照)

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	炭疽病	発生量：やや多い	10月下旬現在、平年よりやや多い発生である。発病株は早期に抜き取り、適正に処分する。
	じゃのめ病	発生量：やや多い	10月下旬現在、平年よりやや多い発生である。
	アブラムシ類	発生量：やや多い	10月下旬現在、平年よりやや多い発生である。
ピーマン 促成	アザミウマ類	発生量：平年並	10月下旬現在、平年並の発生である。
秋冬ハクサイ	白斑病	発生量：やや多い	10月下旬現在、平年並～やや多い発生である。向こう1か月の降水量は平年より多く、日照時間は平年より少ないと予想され、発生を助長する条件である。
冬レタス	腐敗病	発生量：平年並	10月下旬現在、平年並の発生である。
秋冬ネギ	べと病	発生量：平年並	10月下旬現在、平年並の発生である。
	ネギアザミウマ	発生量：やや多い	10月下旬現在、平年よりやや多い発生である。

II. 今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 10月22日から11月21日)

気象庁 (10月21日 発表)

< 向こう 1 か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率 (%) >

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	10	30	60
降水量	関東甲信全域	20	30	50
日照時間	関東甲信全域	50	30	20

[概要]

天気は数日の周期で変わるでしょう。平年に比べ曇りや雨の日が多い見込みです。

< 1 週目の予報 > 10月22日(土曜日)から10月28日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率 70%

< 2 週目の予報 > 10月29日(土曜日)から11月4日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率 60%

< 3 週目から 4 週目の予報 > 11月5日(土曜日)から11月18日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率 40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し, 適用作物, 使用方法, 注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には, 周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず, 良く洗浄しましょう。